

ラシード・ウッディーン『歴史集成』現存写本目録

—Rashīd al-Dīn's *Compendium of Chronicles*:
a bibliography of the extant manuscripts—

白 岩 一 彦

はじめに

1. ラシード・ウッディーン『歴史集成』
について
2. 写本の現存状況
ラシード・ウッディーン『歴史集成』現存
写本目録
- I. 『歴史集成』第1巻「ガザン史」の
写本
 - a. 本文のみの写本 (1)~(15)
 - b. 挿画用スペース入り写本 (16)
~(24)
 - c. 挿画入り写本 (25)~(27)

II. 『歴史集成』第2巻「世界史」の写
本

- a. 本文のみの写本 (28)~(47)
- b. 挿画用スペース入り写本
- c. 挿画入り写本 (48)~(56)

III. 『歴史集成』第1, 2巻の合巻本

- a. 本文のみの写本 (57)~(61)
- b. 挿画用スペース入り写本 (62)
- c. 挿画入り写本 (63)~(64)

IV. 写本の詳細なし所在が不明のもの
(65)~(72)

参考文献一覧

はじめに

14世紀にイルハン朝治下のイランでラシード・ウッディーンによって編纂された『歴史集成』は、イラン史研究はもとより、モンゴル帝国や13-14世紀の世界史研究の上でも欠かすことのできない重要文献である。しかし、この『歴史集成』は、モンゴル語のみならず、トルコ語、漢語、サンスクリット語、チベット語などの諸言語から来ている固有名詞や行政・文化用語が数多く使用されている難解な文献であり、そうした外来語起源の名詞や用語の正しい発音は、『歴史集成』のペルシア語原文の字面からは正確に知ることができない。そのため、『歴史集成』の最初期の写本においては、それらの名詞や用語の正しい読み方を示すための発音符号が付けられていた。しかし、イルハン朝が滅亡した1336年以降に作られた『歴史集成』の写本においては、こうした名詞や用語の綴りが急速に不正確になり、また、それらの名詞や用語に付された発音符号も省略されるようになった。このような状況で書写を重ねるにつれて、ラシード・ウッディーンの『歴史集成』という著作は、イラン人にとってすら正確に読むことが困難な文献になってしまった。そこで、『歴史集成』の本文を正確に

読むためには、こうした外来語起源の名詞や用語の綴りや発音が正確に記されている古写本を捜しだすことが不可欠となる。

ラシード・ウッディーン『歴史集成』には、筆者の調査によると、世界10ヶ国16都市に72の写本が現存する。しかし、これまで誰もその完全な目録を作成したことがなく、研究者が『歴史集成』の本文を研究しようとしても、『歴史集成』の現存写本とそのグループ分けに関する情報が不足しているために、様々な困難や誤りに陥ることが多かった。

そこで本稿では、ラシード・ウッディーン『歴史集成』の現存写本に関する書誌情報を集めて『歴史集成』の現存写本目録を作成し、従来から本文研究に困難が多かった『歴史集成』の正確な原文の参照ないし復元と研究のための足掛かりを提供することにした。

1. ラシード・ウッディーン『歴史集成』について

イルハン朝の宰相ラシード・ウッディーンが第6代イルハンのガザン・ハン（1295—1304）の命によって編纂を開始し、ガザン・ハンの弟オルジェイトゥ・ハン（1304—1316）の時代に完成した『歴史集成』*Jāmi' al-tavārikh*（通称『集史』）は、モンゴル民族史を核とし、当時の世界の主要民族・国家の歴史や地誌を加えた、一大歴史全書である¹⁾。このラシード・ウッディーン『歴史集成』は、岡田英弘教授が指摘しているように、真に「世界史」と呼ぶにふさわしい著作としては世界で初めての試みであった²⁾。

しかし、この世界で初めての「世界史」としての『歴史集成』は、最初からそのような書物として計画されていたわけではなく、1300年頃にガザン・ハンがラシード・ウッディーンに命じたモンゴル民族史の編纂がきっかけとなり、誕生したものである³⁾。

ロンドン大学のDavid Morgan氏によれば、「ガザンがこの仕事を〔ラシード・ウッディーンに〕委任したのは、モンゴル人がペルシアにイスラム教徒として住みつくにつれ、最終的には、自分たちが何者であり、どこから来たのかということをおそれると思うからである」という⁴⁾。

こうして、ガザン・ハンからモンゴル民族史編纂の命を受けたラシード・ウッディーンは、宮廷内の財庫に保管されていた、「アルタン・デプテル」（金冊）と呼ばれるモンゴル語の複数の冊子及び文書類を主たる史料とし、各種の系図や既存の歴史書等も参照し、それで足りない分はイルハン朝宮廷に出入りしていた外国人たちから聞き取り調査を行って補った⁵⁾。しかし何と言っても彼の仕事を助けた最大の功労者は、クビライ・カーン（1271—1294）の使節として元朝からイルハン朝に派遣され、そのまま居付いたプーラード・チンサンという名のモンゴル人である。

プーラード・チンサンは、自らもモンゴル民族史に詳しくと言われるガザン・ハンを凌ぐほどにモンゴル民族史に精通しており、モンゴル民族史の知識の宝庫と呼

ぶにふさわしい人物であった⁶⁾。彼は、チンギス・ハンやその祖先と戦ったことのあるドルベン族の出身であり、特にドルベン族の間に伝わる歴史伝承によく通じていたらしく、『歴史集成』第1巻所収の「チンギス・ハン祖先紀」や「チンギス・ハン紀」には、彼がラシード・ウッディーンに語り伝えた伝承に基づくと思われるモンゴル古代史の記述があちこちに見受けられる⁷⁾。

実際、ラシード・ウッディーンが、『歴史集成』第1巻「ガザン史」への序文の中で、このプーラード・チンサンの名を挙げて謝意を表していることから見て、今われわれが『歴史集成』第1巻「ガザン史」として手にしているモンゴル民族史は、プーラード・チンサンへの助力なしには成立し得なかったであろうと考えられる⁸⁾。

ラシード・ウッディーンは、ガザン・ハンからモンゴル民族史編纂の命を受けてから三年後の1303年頃にこのモンゴル民族史の草稿をほぼ完成し、これに『ガザンの祝福された歴史』*Tārīkh-i Mubārak-i Ghāzāni* (以下『ガザン史』という)と名付け、同じ年に『ガザン史』への序文を執筆しているの、ガザンへ献呈するための『ガザン史』献呈本の作成もこの頃から開始されたと考えられる⁹⁾。

しかし、ガザン・ハンは、自らが編纂を命じたモンゴル民族史の書物である『ガザン史』の献呈本を眼にすることなく、1304年5月17日に「天国への門」であるカズヴィーンで死去した¹⁰⁾。

この時、『ガザン史』は、草稿本の一部の浄書が終わるか終わらないかの状態で、その完成が危ぶまれる事態となった。しかし、ガザン・ハンの弟で同年7月にイルハンの位を継いだオルジェイトゥ・ハン(1304-1316)は、兄の始めたこのモンゴル民族史編纂事業をそのまま継続させ、自らも『ガザン史』の草稿及び浄書済みの部分に眼を通し、訂正を加えた¹¹⁾。その一方で、オルジェイトゥ・ハンは、ガザン存命中に作られた本文を尊重し、ガザンの死去及びそれに続くオルジェイトゥ・ハンの即位に伴う本文の変更は行わせないため、『ガザン史』本文中ではガザン・ハンがイルハン朝を統治していることになっている。このようなことから、イランでは、『ガザン史』の成立年代をガザン・ハンの死去したヒジュラ暦703年(1303年8月15日-1304年8月3日)から一年以内のヒジュラ暦704年(1304年8月4日-1305年7月23日)とするのが、ティムール朝期からの定説となっている¹²⁾。

こうして、オルジェイトゥ・ハンの校閲を経た『ガザン史』は、その巻頭に新たに『歴史集成』全3巻への序文と目次(Fihrist)を付した上で麗筆・献呈本として作成され、オルジェイトゥ・ハンに献呈されたと考えられる。この麗筆・献呈本の成立年代は、その初めから三分の一の残簡と見なし得る写本(イラン国民議会図書館写本2294番)にある記述により、1304年10月中旬頃と推定される。また、その献呈の時期は、ラシード・ウッディーンと同時代の歴史家カーシャーニーの『オルジェイトゥ史』に、オルジェイトゥ・ハンが兄の墓へ詣るためにタブリーズを訪れたことが記されている1304年10月11日から10月13日の間ではないかと推定される¹³⁾。カーシャーニーは、この時に『ガザン史』が献呈されたとは記していないが、彼の知らないうちにラシード・ウッディーンが、その頃までにひとまず完成したこの『ガザン史』を、やが

て献呈されるべき全3巻の『歴史集成』の第1巻としてオルジェイトゥ・ハンに捧げたことは、あり得ないことではない。

オルジェイトゥ・ハンは、『ガザン史』はあくまで兄の始めた編纂事業として、兄の名で完成させることを望んだが、その一方では、自分の名によって『ガザン史』の続編たる『世界史』や『地理志』を編纂し、『ガザン史』と合わせて全3巻の『歴史集成』を完成して自分に献じるよう命じたので、ラシード・ウッドイーンは、オルジェイトゥ・ハンの時代にも歴史編纂事業に携わることになった¹⁴⁾。

この『歴史集成』全3巻は、1304年10月頃に完成した『歴史集成』第1巻「ガザン史」の麗筆・献呈本の巻頭に付せられた『歴史集成』序文に述べられているとおり、第1巻「ガザン史」、第2巻「世界史」、第3巻「地理志」の全3巻で構成される著作となるはずであったが、第2巻及び第3巻はまだ計画段階のため『歴史集成』序文に収録されたこれら2巻の内容細目はきわめて大まかなものであり、同じ序文に収録されている第1巻「ガザン史」の詳細な内容細目と際立った対照を見せている¹⁵⁾。

この3巻本『歴史集成』*Jāmi' al-tavārikh*のオルジェイトゥ・ハンへの献呈本は、新たに書写し直された第1巻を含めて、約2年半後に完成し、1307年4月14日にオルジェイトゥ・ハンに捧げられた¹⁶⁾。この時オルジェイトゥ・ハンに献呈された『歴史集成』は、挿画・挿図入りのものであったらしく、この1307年の『歴史集成』献呈本の系統に属する写本と考えられるイルハン朝期ないしジャライル朝期の『歴史集成』第1巻「ガザン史」の写本には、挿画用のスペースが空けられている¹⁷⁾。こうした挿画用スペースの存在からわかることは、それらの挿画用スペース入り写本の元になった最初の写本には挿画があったが、その写本を書写する際に挿画の部分のみ空白にして書写したために挿画用スペース入りの写本が発生し、そのままの形で書写されていったという事実である。また、これらのイルハン朝期ないしジャライル朝期の写本に見られる本文と1304年の『ガザン史』麗筆・献呈本の本文を比較してみると、前者の本文は増補・改訂を経て記述の量が増加している¹⁸⁾、前者の原本と見なされる1307年の挿画・挿図入り献呈本の段階ですでに本文にこのような増補・改訂の手が加えられていたと考えることができる。また、『歴史集成』第2巻「世界史」の場合、現存する初期の写本、すなわちイルハン朝期からティムール朝期の写本はそのほとんどが挿画入りのものであることから、第2巻の場合には、第1巻の場合と異なり、初めから挿画入り写本として作成されたものと考えることができよう¹⁹⁾。

ラシード・ウッドイーンは、オルジェイトゥ・ハンにこの挿画・挿図入り全3巻の『歴史集成』を献呈した後も、さらに『歴史集成』の増補・改訂の作業を続け、既存の3巻に「民族志」の巻を増補した全4巻本の『歴史集成』を1310年までに完成させた。そしてその一揃いを、自分がタブリーズ市の郊外に建設し、ワクフ（宗教信託財産）として寄進したラシード区内のマスジッド（礼拝堂）に奉納して、一般大衆の閲覧に供した²⁰⁾。また、このラシード区における寄進物件や寄進行為の詳細を記録したワクフ文書に、『歴史集成』を含む自分の著作の写本作成に関する細かい指示を記し、毎年ペルシア語版とアラビア語版の『歴史集成』をそれぞれ一揃いずつ作るよう指示

している²¹⁾。

2. 写本の現存状況

ラシード・ウッドィーンの『歴史集成』は段階を経て完成した著作であり、それぞれの段階ごとの原本やその系統の写本の現存状況は次の通りである。

(1) 『ガザン史』草稿本 (1303年頃成立)

これは散逸して伝わらない。この『ガザン史』草稿本の本文を受け継いでいるのが1317年書写のトプカブ宮殿写本と主張する説もあるが²²⁾、このトプカブ宮殿写本は1307年の挿画・挿図入り献呈本の系統を引く写本で、随所に挿画用のスペース(空白部分)があるので、最初に成立した本文のみの草稿本とは系統的に結び付かない。

(2) 『ガザン史』麗筆・献呈本 (1304年10月頃成立)

これは、(1)の『ガザン史』草稿本及びその浄書済みの部分のうち、オルジェイトゥ・ハンが自ら訂正を加えたものから浄書された分と、訂正を要しなかった分とを合わせ、その巻頭に新たに『歴史集成』全三巻への序文・内容細目を付し、『歴史集成』という新しい書物の第1巻「ガザン史」という形で1304年10月頃にオルジェイトゥ・ハンに献呈されたと考えられる写本である。これは、その冒頭の『歴史集成』序文からチンギス・ハン紀の途中まで、すなわち全体の約三分の一がイラン国民議会図書館(現イスラム議会第一図書館)に写本2294番として現存している²³⁾。また、この『ガザン史』麗筆・献呈本の系統の写本も、イランのみならず、ロシア、フランス、イギリスの各国に相当数残っている。これらの写本のほとんどが、原本と同様、本文のみの写本である。ロンドン大学のDavid Morgan氏は、ラシード・ウッドィーンの『歴史集成』について、「早い時期に書かれた、短い方の本文が存在したようである(There appears to have been an earlier, shorter version)」と述べ、現行の『歴史集成』本文に先行する、短い方の本文の存在を示唆しているが²⁴⁾、この『ガザン史』麗筆・献呈本及びその系統の写本の本文は、まさにこの記述に合致したもので、下記の(3)に挙げた『ガザン史』の各写本に共通して見られる一群の増補記事がおおむね欠けており、記述量もそれに応じて少なくなっている²⁵⁾。

(3) 3巻本『歴史集成』挿画・挿図入り献呈本 (1307年4月14日献呈)

この3巻本『歴史集成』挿画・挿図入り献呈本は散逸して伝わっていないが、その第1巻「ガザン史」から書写され、ないしはその系統の写本と思われる、挿画用スペース入り写本は、トルコ、ウズベキスタン、オーストリア、イギリスに現存している(後述のI-b、III-b参照)。これらの写本には、(2)の系統の写本にはほとんど見られない一群の増補記事があり、記述量も(2)の系統の写本に比較して多い(注17参照)。

また、『歴史集成』第2巻「世界史」の挿画入り献呈本は現存しないが、この献呈本から書写され、あるいは翻訳された写本や、それらの系統の写本として、いくつかの挿画入り写本が残っている²⁶⁾。また、この系統の写本で挿画を全部あるいはほとんど省略して作成された写本も見受けられる²⁷⁾。

(4) 4巻本『歴史集成』

これは散逸して伝わらない。1318年7月にラシード・ウッディーンがオルジェイトゥ・ハン毒殺の嫌疑により処刑された際に、彼がワクフとして寄進していたラシード区も民衆の略奪を受けたが、その際にこの4巻本『歴史集成』も失われたようである。また、この4巻本系統の写本もほとんど伝わっていない。そのことは、現存する『歴史集成』第1巻「ガザン史」の巻頭の内容細目を見る限り、いずれの写本も3巻本の内容を記述していて、4巻本の内容を記述したものが見当たらないことから窺える。(後述のI及びIIIに挙げた各写本を参照)

ただし、この4巻本『歴史集成』には、その第3巻「民族志」の系統を引くと思われる『五分枝』*Shu'bi Panjānah*という名の、ティムール朝期に書写された一写本がトルコのイスタンブルに現存しているが、この写本には、ラシード・ウッディーンが自ら作成した『著作目録』中の『歴史集成』第3巻「民族志」についての記述中に見えない「ヒタイ民族」の系図が加えられており、内容的にはティムール朝期に作られた「民族志」の修訂・増補本と考えられる。しかし、その一方で、『五分枝』という独自の書名を有する点から、本稿では、この『五分枝』を『歴史集成』とは別の独立した著作と見なし、『歴史集成』の写本の中には含めないことにする。

以上で見たように、ラシード・ウッディーン『歴史集成』の写本として今日われわれが目にしうるものは、大きく言って、(2)の『ガザン史』麗筆・献呈本の流れをくむ写本群と、(3)の3巻本『歴史集成』挿画・挿図入り献呈本系の写本群の二つということになる。これに加えて、ティムール朝期前半のヘラートにおける歴史編纂事業の結果、『歴史集成』第1巻「ガザン史」には、フランス国立図書館写本 *Supplément persan 1113* に代表されるようなティムール朝期の修訂本の系統が新たに発生しているので²⁸⁾、ラシード・ウッディーン『歴史集成』の現存写本には、これら三つの写本系統があることになる。

ただし、時代が後の写本になればなるほど、写本系統が混ざり合っていく可能性があるので、この『歴史集成』の写本系統の考察には、各巻ごとに古写本にさかのぼって内容を比較検討することが必要になる。

注

1) この『歴史集成(集史)』という書物については、次の拙稿を参照。

「歴史家ラシード・ウッディーンの生涯と著作」『アジア資料通報』第35巻第2号(1997年4月)、3-6頁；『集史』研究の現状と課題』『日本中東学会年報』第10号(1995年)、179-198頁；「モンゴル史に関する原典史料、13-14世紀」『アジア・アフリカ資料通報』

第23巻第9号(1989年12月), 25—27頁。

- 2) 岡田英弘『世界史の誕生』筑摩書房 1992, 245—246頁。
- 3) 拙稿「歴史家ラシード・ウッディーンの生涯と著作」, 3頁。
なお、この『ガザン史』成立のいきさつについては、ラシード・ウッディーン自身、「ガザンの祝福されたる歴史という名の書物編纂の理由について (Zikr-i sabab-i ta'lif-i in kitāb ki mausumst bi-Tārikh-i Mubārak-i Ghāzānī)」という一節を『ガザン史』本文中に設けて、詳しく記している。(イラン国民議会図書館写本2294番, ff. 8b-9b; トプカプ宮殿図書館写本 Revan Köşkü 1518番, ff. 7a-8a)。
- 4) Morgan, David, “Rashīd al-Dīn Ṭabīb,” *Encyclopedia of Islam*, Rev. ed., v. VIII, Leiden, 1994, p. 443.
- 5) イラン国民議会図書館写本2294番, ff. 8b-9b; 志茂碩敏『モンゴル帝国史研究序説』東京大学出版会 1995, 6頁。
- 6) イラン国民議会図書館写本2294番, f. 9a 及び拙稿「『集史』テヘラン写本(イラン国民議会図書館写本2294番)について」『オリエント』第36巻第1号(1993年9月), 66—67頁及び70頁注(25)参照。
- 7) たとえば、チンギス・ハンの祖父ブルタン・バハドゥルの弟であるクトラ・カンと彼を襲撃したドルベン族との戦いの様子は、「チンギス・ハン祖先紀」に極めてリアルに描かれている(イラン国民議会図書館写本2294番, ff. 51a-51b 参照)。おそらく、そこに居合わせた人々の話がドルベン族の間で代々語り伝えられ、プーラード・チンサンを通してラシード・ウッディーンに伝えられたのであろう。
- 8) イラン国民議会図書館写本2294番, f. 9a 参照。
- 9) Romaskevich, A.A., L.A. Khetagurov, A.A. Ali-zade, eds., *Rashīd al-Dīn Fazlallāh, Jāmi' al-tavārikh*, v. 1, pt. 1, Moskva, 1965, p. 53; イラン国民議会図書館写本2294番 f. 8a. (「この時代すなわち702年(1302/1303年—引用者注)の月々に」という記述あり)。
- 10) 拙稿「ラシード・ウッディーン『歴史集成』イラン国民議会図書館写本の成立年代について」『オリエント』第40巻第2号(1998年3月), 88—89頁。
- 11) 同上, 89頁。
- 12) フランス国立図書館写本 *Supplément persan* 209 (1434年書写), f.443a; Karimī, Bahman, ed., *Jāmi' al-tavārikh*, t. 1, Tih-rān, 1959, title page.
- 13) 拙稿「ラシード・ウッディーン『歴史集成』イラン国民議会図書館写本の成立年代について」, 95—97頁。
- 14) Romaskevich, A.A., and others, eds., *op. cit.*, pp. 16-17; イラン国民議会図書館写本2294番, f. 3a 参照。
- 15) イラン国民議会図書館写本2294番, ff. 4a-6a 参照。
- 16) 拙稿「歴史家ラシード・ウッディーンの生涯と著作」, 5—6頁。
- 17) 同上, 7頁参照。
- 18) 拙稿「ラシード・ウッディーン『歴史集成』イラン国民議会図書館写本の成立年代について」, 98頁, 表2参照。
- 19) トプカプ宮殿図書館写本 *Hazine* 1654 (1317年他), *Hazine* 1653 (1416年), ロンドンの *Khalili* 写本727 (1314年), エディンバラ大学所蔵写本 *Arab* 20 (1314年) 等を参照。
- 20) 拙稿「歴史家ラシード・ウッディーンの生涯と著作」, 6頁。

- 21) 拙稿「『集史』バリ写本 (Supplément persan 1113) について」、『オリエント』第34巻第1号 (1991年9月), 28頁及び31頁, 注35) 参照。このラシード・ウッドィーンのワクフ文書については、拙稿「ラシード・ウッドィーンのワクフ文書」『アジア資料通報』第26巻第12号 (1989年3月), 28—40頁, 及び拙稿「イスラム教国の宗教財産制度 (ワクフ)」『レファレンス』第523号 (1994年8月), 44—48頁参照。
- 22) 志茂智子「ラシード・ウッドィーンの「モンゴル史」—「集史」との関係について」『東洋学報』76巻第3・4号 (1995年3月), 116—119頁。
- 23) この写本について論じた論文は、注6)と注10)に挙げた拙稿 (1993, 1998) のほかは、日本でも外国でもほとんど見当たらない。このことは、現在のイランにおいてすらこの写本の重要性に関する認識が不十分であることを示している。
- 24) Morgan, David, *op. cit.*, p. 443.
- 25) 注18)に同じ。
- 26) 注19)参照。
- 27) トプカプ宮殿図書館写本 Ahmet III, 2935 (15世紀前半書写, 挿画なし); フランス国立図書館写本 Supplément persan 2004 (ヒタイ史 (中国史) の部分のみ挿画あり); 同 Supplément persan 1364—1365 (19世紀に上記の Ahmet III, 2935より書写, 挿画なし)。
- 28) フランス国立図書館写本 Supplément persan 1113 の場合、本文の後半 (ff. 210—285) を書写したのがティムール朝期の歴史家ハーフィズィ・アブルー自身であることは、筆者が初めて発見した事実である。下記を参照。

Shiraiwa, Kazuhiko, "Sur la date du manuscrit parisien du *Ġami' al-tavārikh* de Rašid al-Din," *Orient* (Tokyo), v.32 (1997), pp. 37-49.

この写本の書写の際に、ハーフィズィ・アブルーは、単に『歴史集成』の一写本を書き写すばかりでなく、自分が収集した史料に基づいて書き直したり、あるいは書き足している、その結果、『歴史集成』にティムール朝期の修訂本という新たな写本の系統が発生したものである。この点については、紙数の関係により、別の論稿で詳しく述べることにする。

ラシード・ウッディーン『歴史集成』現存写本目録

A bibliography of the extant manuscripts of
Rashid al-Din's *Jāmi' al-Tavārikh*

凡 例

本目録には、ラシード・ウッディーン『歴史集成』の写本で現存するもの72点についてのデータを収録した。この目録に収録した以外にも新たな写本が見つかる可能性があるが、今回はこのような形で、筆者が過去10年間にわたり行ってきた『歴史集成』写本調査の結果をまとめることにした。

本目録作成に当たっては、参考文献一覧に掲げた各種のペルシア語写本目録類を主たる情報源とし、さらに、できるだけ写本の現物ないしマイクロフィルムを参照し、それら写本目録類の記述に追加あるいは訂正を加えた。筆者が写本の現物を参照し得た場合には写本の略号のあとに**を、また、写本のマイクロフィルムや写真等の複製物を利用した場合には、同じく写本の略号のあとに*を付した。本目録の記載事項は①～⑳の通りである。

なお、写本目録の記述で記載事項の不明なものについては、スペースの関係で当該項目の記載そのものを省略したことをお断りしておく。

(通し番号) 写本の略号	(Sequel number) Abbreviation of the MS
① 所蔵機関 (所在地)	Name and location of library
② 請求記号	Call number
③ 書写年代	Date of copying
④ 書写生	Copyist
⑤ 書写地	Where MS was copied
⑥ 葉数	Number of leaves
⑦ 内容	Contents
⑧ 言語	Language
⑨ 大きさ	Size of MS
⑩ 書写面	Writing area of MS
⑪ 行数	Number of lines per page
⑫ 書体	Style of calligraphy (Naskh, Cursive Naskh, Nasta'liq)
⑬ 匡郭の有無	Columns (jadval)
⑭ 装飾の有無	Illuminations
⑮ 挿画の有無	Illustrations
⑯ 挿画用空白部分の有無	Blank spaces for illustrations
⑰ 落丁, 錯簡その他	Missing leaves, wrong order of leaves, etc.
⑱ 製本	Bindings

⑱ 特記事項	Special remarks
⑳ 複製版	Facsimile editions
参考文献	References

I. 『歴史集成』第1巻「ガザン史」
の写本

a. 本文のみの写本 Manuscripts consisting of text only

(1) Majlis 2294 *

- ① National Parliamentary Library, Tehran (イラン国民議会図書館) 所蔵
- ② 写本番号2294番
- ③ 1304年10月頃書写 (推定)
- ⑤ タブリーズ (推定)
- ⑥ 98葉
- ⑦ 内容は、『歴史集成』第1巻「ガザン史」のうち「歴史集成序文」から「チンギス・ハン紀」の途中まで
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦28cm×横19cm
- ⑩ 毎頁 29行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾あり
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 全体で約300葉の本文のうち、後の方約三分の二が欠落。奥書も失われている。
- ⑱ 豆緑色のシャグラ革装の上に金泥で枠を引き、その中に花の紋様のなつめ紅色をしたシャグラ革があり、光沢のある山羊皮で縁取りがされている。
- ⑲ ベスメラ (唱辞) 及び標題装飾が各

二か所ある。文字及び匡郭は金泥を含む数色のインクで記されている。チンギス・ハン一族の人物の名は金泥で記し、あるいは‘や’という記号で囲って敬意を表している。この写本に使われている紙や文字は、ナフィースイーの意見によれば、ヒジュラ暦8世紀の初め頃のものである。さらに、本写本冒頭の「歴史集成序文」の中に、この写本がオルジェイトウ・ハンが即位してから3か月たった頃に作成されたことを示す記述があるので、この写本の成立年代が1304年10月頃と知られる。以上のような特徴及び文献学的な証拠から見て、この写本はオルジェイトウ・ハンに捧げられた「ガザン史」の献呈本と考えられる。

- ⑳ 足利, 田村, 恵谷 (1968), 75-172頁; 本目録, 図2

参考文献: 足利, 田村, 恵谷 (1968), 21, 71-73頁; Nafisi 2294; Munzavī 42514; Storey-Bregel', I, p.307; 白岩 (1993); 白岩 (1997); 白岩 (1998)

(2) Ancien fonds persan 68 *

- ① Bibliothèque Nationale de France, Paris (フランス国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Ancien fonds persan 68
- ③ 14世紀頃書写。14世紀前半頃書写という意見もある (E. Blochet)。
- ⑥ 121葉
- ⑦ 内容は第1巻の「チンギス・ハン紀」

の途中まで

- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦34cm×横25.5cm
- ⑩ 書写面は 縦27cm×横17cm
- ⑪ 毎頁 27行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 匡郭なし
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 第1巻「チングス・ハン紀」の途中以降の本文欠。奥書欠。
- ⑱ ナポレオン1世の紋章を押した洋風羊皮装本
- ⑲ 標題や見出しのところが記入せずに空けてあり、また、固有名詞を記すべきところで空白のままになっている箇所も多い。恐らく後から赤インクで記入する予定でいて、何らかの事情で記入することができずに終わったのであろう。

参考文献：Blochet, I, 256; Browne (19)

(3) Add. 1668 **

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Add. 16688
- ③ 14世紀頃書写。1316年までに書写されたという説もある (Munzavi)。
- ④ ムハンマド・ビン・ハムザ書写
- ⑥ 293葉
- ⑦ 内容は第1巻「ガザン史」の後半(「ジョチ・ハン紀」から「オルジェイトゥ紀」まで)
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦28cm×横21cm
- ⑩ 書写面は 縦21.5cm×横16cm

- ⑪ 毎頁 21行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 匡郭なし
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 第1巻の前半を欠く。
- ⑱ 洋風総革装本
- ⑲ 第2, 3, 291-293葉と288-289葉は、それぞれ別の書写生による後代の補写である。第293葉にヒジュラ暦930年ズールヒッジャ月3日(1524年10月2日)の奥書があり、書写生ムハマッド・ビン・アビー・ターヒルの名前が記されている。

参考文献：Rieu, I, 78-79; Munzavi 42511, 42515 (重複); Browne (2)

(4) Supplément persan 209 *

- ① Bibliothèque Nationale de France, Paris (フランス国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Supplément persan 209
- ③ ヒジュラ暦837年ラジャブ月(1434年2月/3月)に書写
- ④ 書写生はマスード・ビン・アブドッラフ
- ⑤ 書写地はヘラート(推定)
- ⑥ 534葉
- ⑦ 『歴史集成』第1巻及び続編(「オルジェイトゥ紀」, 「アブー・サイード紀」)
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦35cm×横26cm
- ⑩ 毎頁 23行
- ⑪ ナスタアリーク体
- ⑫ 匡郭あり
- ⑬ 装飾あり

- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 総羊皮装本
- ⑱ シャー・ルフ・バハードゥル (1405-1447) のために作成された豪華写本。本文は同じフランス国立図書館所蔵の Supplément persan 1113 に似通っている (Blochet による)。

参考文献: Blochet, I, 255; Browne (18)

(5) Birūni 2

- ① Abu Rayhon Beruni Institute of Oriental Studies, Tashkent (アブー・ライハン・ビールーニー東洋学研究所) 所蔵
- ② 写本番号 2
- ③ ヒジュラ暦932年第2ジュマード月 (1526年3-4月) に書写
- ④ ムハンマド・アリー・ビン・マウラーナー・ヤール・アリー書写
- ⑤ 書写地はサマルカンド
- ⑥ 511葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻及び「オルジェイトウ紀」
- ⑧ ウズベク語
- ⑨ 大きさは 縦36.5cm×横24cm
- ⑩ 毎頁 17行か
- ⑪ ナスタアリーク体
- ⑫ 匡郭あり
- ⑬ 装飾あり
- ⑭ 挿画なし
- ⑰ 第二代シャイバーニー・ハーンのクチュクンジュ・ハーン (1510-1530) の命により作成された写本で、その華麗な標題装飾などから、クチュクンジュ・ハーンへの献呈本と見なされている。

参考文献: Semenov, I, 25

(6) Bodleian 23 * *

- ① Bodleian Library, Oxford (ボードリアン図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Elliot 377
- ③ ヒジュラ暦944年 (1537/1538年) に書写
- ④ 書写生はサッイディー・アフマッド・アル・ハーフィズ・ナスルッラフ
- ⑥ 236葉 (ff. 332b-567a)
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦36cm×横23.5cm
- ⑩ 書写面は 縦23cm×横14cm
- ⑪ 毎頁 30行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾あり
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 明るい茶色の洋風総革装本
- ⑱ この写本の ff. 1b-331a はペルシア語版の *Tārīkh-i Ṭabarī* で、ff. 568-617a はオルジェイトウ・ハンからアブー・サイード・ハンまでを扱う別の著作となっているが、書写生は同じ人物であるから、最初からこのような構成の写本として作成されたのであろう。

参考文献: Éthé 1889, 23; Browne (13)

(7) Bayern 207

- ① Bayerische Staatsbibliothek, München (バイエルン州立図書館) 所蔵

- ② 写本番号 207
- ③ ヒジュラ暦952年ズール・カアダ月 (1546年1月/2月) に書写。一部はヒジュラ暦1015年 (1606/1607年) に書写。
- ④ 書写生はアリー・アル・カーティブ・シーラーズィー
- ⑥ 391葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦34.5cm×横24cm
- ⑩ 毎頁 19行
- ⑪ ナスタアリーク体
- ⑫ ff. 1-68は、ヒジュラ暦952年に書写されたこの写本の本体の方では簡略にしか記されていない「ガザン・ハン紀」の Hikāyat の部分のみを、ヒジュラ暦1015年に別の写本から書写して補ったもの。ff. 69-76の白紙部分を挟んで、f. 77から f. 391までが、ヒジュラ暦952年に書写されたこの写本の本体となっている。

参考文献：Aumer 207; Browne (23)

(8) D66

- ① Institut Narodov Azii, St.-Petersburg (ロシア科学アカデミー・アジア民族研究所) 所蔵
- ② 写本番号 D66
- ③ ヒジュラ暦984年 (1576/1577年) に書写
- ⑥ 424葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻。ff. 425 a-509bに『歴史集成続編』を含む
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 装飾あり

参考文献：Akimushkin 899;

(9) Hekimoğlu 'Alī Paşa 703

- ① Süleimaniye Library, Istanbul (スュレイマニエ図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Hekimoğlu 'Alī Paşa 703
- ③ ヒジュラ暦10世紀頃 (16世紀) に書写
- ⑥ 218葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻のうち「チングス・ハン紀」の途中まで
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦25cm×横20cm
- ⑩ 書写面は 横12.5cm
- ⑪ 毎頁 18行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 挿画なし
- ⑭ 挿画用空白部分なし
- ⑮ 革装本
- ⑯ Tauerによれば『ハーフィズィ・アブルー全書』の部分的な写本。紙は上質の白い紙で、インクは黒と赤の二色。

参考文献：Tauer 35

(10) Brūni 1643

- ① Abu Rayhon Beruni Institute of Oriental Studies, Tashkent (アブー・ライハン・ビールニー東洋学研究所) 所蔵
- ② 写本番号 1643
- ③ 16世紀頃書写
- ⑥ 39葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻のいくつかの部分を集めたもの。最後はオルジェイトウの即位の章になっている。
- ⑧ ペルシア語

- ⑫ 複数の書体あり。
 ⑬ 『歴史集成』第1巻本文の真ん中の部分にかなりの欠落あり。

参考文献：Semenov, I, 22

(11) Milli F/1569

- ① National Library, Tehran(イラン国立図書館)所蔵
 ② 写本番号 F/1569
 ③ ヒジュラ暦11世紀(17世紀頃)に書写
 ④ 216葉
 ⑤ 内容は『歴史集成』第1巻
 ⑥ ペルシア語
 ⑦ 大きさは 縦40.5cm×横27cm
 ⑧ 書写面は 縦35.5cm×横23cm
 ⑨ 毎頁 31行
 ⑩ 挿画なし
 ⑪ 挿画用空白部分なし
 ⑫ 章立ての見出しを赤インクで記す。

参考文献：Anvār (1973), pp. 62-63

(12) Supplément persan 1643 *

- ① Bibliothèque Nationale de France, Paris(フランス国立図書館)所蔵
 ② 写本番号 Supplément persan 1643
 ③ 16世紀に書写(E. Blochetによる)
 ④ 職業的な書写生ではなく、学者による書写(E. Blochetによる)
 ⑤ 188葉
 ⑥ 内容は「歴史集成序文」から「チンギス・ハン紀」の途中まで
 ⑦ ペルシア語
 ⑧ 大きさは 縦21cm×横14.5cm
 ⑨ 毎頁 17行
 ⑩ ナスフ体
 ⑪ 匡郭なし

- ⑫ 装飾なし
 ⑬ 挿画なし
 ⑭ 挿画用空白部分なし
 ⑮ 東洋風草装本(E. Blochetによる)
 ⑯ イラン国民議会図書館写本2294番(本目録(1)参照)からかなり忠実に書写されたもの。ただし、最初の方のタムガの図のように、そのまま書き写さずに省略したところもある。このイラン国民議会図書館写本2294番と同様に本文が「チンギス・ハン紀」の途中までで、後は途切れていることから見て、イラン国民議会写本が現在のように後の三分の二が欠落した状態になってから以降にこの写本が書写された可能性が大きい。最後の1、二葉欠。奥書欠。

参考文献：Blochet, IV, 2280

(13) Bengal D32

- ① Asiatic Society of Bengal, Calcutta(ベンガル・アジア協会)所蔵
 ② 写本番号 D32
 ③ 19世紀末から20世紀初頭にかけてのいずれかの時期に書写
 ④ 書写地はカルカッタ(推定)
 ⑤ 204葉
 ⑥ 内容は Bengal D31(本目録(22)参照)と同じ。ただし、本文のみ。D31の保存状態が悪いので、同写本の本文を書写して保存しようとしたもの(Ivanowによる)。
 ⑦ ペルシア語
 ⑧ 大きさは 縦29.5cm×横20cm
 ⑨ 書写面は 縦22.5cm×横12cm
 ⑩ 毎頁 19行
 ⑪ ナスタアリーク体
 ⑫ 装飾なし

⑮ 挿画なし

参考文献：Ivanow 5

(14) C376

① Institut Narodov Azii, St.-Petersburg (ロシア科学アカデミー・アジア民族研究所) 所蔵

② 写本番号 C376

⑥ 180葉

⑦ 内容は『歴史集成』第1巻

⑧ ペルシア語

⑭ 装飾あり

参考文献：Akimushkin 900；
Munzavī 42532

(15) Rizā 29

① Imām Rizā Library, Mashhad (イマーム・レザー廟附属図書館) 所蔵

② 写本番号 29

⑦ 内容は『歴史集成』第1巻

⑧ ペルシア語

⑩ 毎頁 25行か

⑯ 金泥使用

参考文献：Munzavī 42531

b. 挿画用スペース入り写本 Manuscripts with blank spaces for illustrations

(16) Birūni 1620 *

① Abu Rayhon Beruni Institute of Oriental Studies, Tashkent (アブー・ライハン・ビールニー東洋学研究所) 所蔵

② 写本番号 1620

③ 1307年以降, 1317年以前に書写(筆者の推定)

⑥ 263葉

⑦ 内容は「歴史集成序文」の途中から「ガザン・ハン紀」の途中まで

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦40cm×横28cm

⑩ 毎頁 29行

⑫ ナスフ体

⑬ 匡郭あり

⑭ 装飾なし

⑮ 挿画あり(ただし計7図のみ, 他は空白)

⑯ 挿画用空白部分あり

⑰ 欠落多し(約80葉分)。巻頭, 巻末欠。奥書欠。

⑱ トプカブ宮殿図書館写本(本目録(17))参照)の祖本と同一の写本から書写されたが, トプカブ本よりはるかに正確に, かつ省略なく書写されており, 書写年代は1317年書写のトプカブ本に先行するものと思われる。

参考文献：Semenov, I, 22；白岩(1997)

(17) Revan Köşkü 1518 *

① Topkapı Palace Library, Istanbul (トプカブ宮殿図書館) 所蔵

② 写本番号 Revan Köşkü 1518

③ ヒジュラ暦717年シャバーン月の終わり頃(1317年11月上旬)書写

⑤ 書写地はバグダード

⑥ 343葉

⑦ 内容は「歴史集成序文」の途中から「ガザン史」巻末の奥書まで, 及び「オルジェイトゥ紀」の冒頭部分。

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦41cm×横29.5cm

⑩ 書写面は 縦34cm×横23.5cm

⑪ 毎頁 29行

- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分あり
- ⑰ 第一葉 (bismillah で始まる「歴史集成序文」の冒頭) 落丁。錯簡あり (正しい順番に並べかえると, ff. 3, 4, 5, 6, 1, 2, 7 となる)。
- ⑱ 紙押さえと日輪型の装飾が付いた, コーヒー色の東洋風革装本 (原装)
- ⑲ 紙は光沢のある厚手の紙で, 標題と君主名は赤インクで記されている。
- ⑳ 本目録, 図 3
参考文献: Karatay 139; Tauer 19; 白岩 (1997); Munzavi 42513

(18) **Codex vindobonensis 326 * ***

- ① Österreichische Nationalbibliothek, Wien (オーストリア国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Codex vindobonensis palatinus mxT 326
- ③ 14世紀後半に書写 (筆者の推定)。K. Jahn によれば15-16世紀に書写。
- ④ 339葉 (ただしそのうち60葉は19世紀に他の写本から補写されたもの)
- ⑤ 内容は『歴史集成』第1巻
- ⑥ ペルシア語
- ⑦ 大きさは 縦32cm×横23cm
- ⑧ 書写面は 縦25cm×横12.5cm
- ⑨ 毎頁 27行
- ⑩ ナスフ体
- ⑪ 匡郭は本文中の一部に見られる。
- ⑫ 装飾なし
- ⑬ 挿画なし
- ⑭ 挿画用空白部分あり

- ⑮ 欠落部分60葉を19世紀にイスタンブルで別の写本から書写して補ってある。本写本は, 有名な東洋学者 Hammer-Purgstall がイスタンブルで購入し, ウィーンのオーストリア帝室図書館 (現在のオーストリア国立図書館) に納めたもの。
- ⑯ 洋風革装本。装釘破損のため現在は保護紙に包まれており, 革の色や空押しの有無等は不明。
- ⑰ K. Jahn によれば本写本の本文は非常に正確で, 特に固有名詞の綴りにそれが言えるという。筆者の意見でも, この写本の本文はトプカプ宮殿写本 (本目録 (17)) より正確さの点で勝っており, その成立年代も K. Jahn の考えたよりもおよそ一世紀早いジャライル朝期からティムール朝初期の時代に求められるのではないかと考えられる。
- ⑱ 本目録, 図 1
参考文献: Flügel 957; Browne (21); Jahn (1940), pp. xii-xiii; 白岩 (1985); 白岩 (1997)

(19) **Supplément persan 1561 ***

- ① Bibliothèque Nationale de France, Paris (フランス国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Supplément persan 1561
- ③ 14世紀に書写
- ④ 125葉
- ⑤ 内容は『歴史集成』第1巻「ガザン史」の「ガザン・ハン紀」 Hikāyat の部のみ
- ⑥ ペルシア語
- ⑦ 大きさは 縦27cm×横18cm
- ⑧ 毎頁 21行
- ⑨ ナスフ体

- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分あり
- ⑰ パーチメント装

参考文献：Blochet, I, 448

(20) Aya Sofya 3034 *

- ① Süleimaniye Library, Istanbul (スレイマニエ図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Aya Sofya 3034
- ③ ヒジュラ暦785年 (1383/1384年) に書写
- ④ 418葉
- ⑤ 内容は『歴史集成』第1巻。オルジエイトウ、アブー・サイードに関する記述を含む
- ⑥ アラビア語
- ⑦ 毎頁 13行
- ⑧ ナスフ体
- ⑨ 匡郭なし
- ⑩ 装飾なし
- ⑪ 挿画なし
- ⑫ 挿画用空白部分あり
- ⑬ 錯簡多し

参考文献：Browne (25) ; Tauer 19; Jahn (1963), p. 198.

(21) I.O. 1784 **

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 India Office Collections MS No. 1784
- ③ ティムール朝期ないしサファヴィー朝期に書写 (書体からの推定)
- ④ 394葉
- ⑤ 内容は『歴史集成』第1巻
- ⑥ ペルシア語

- ⑨ 大きさは 縦29.5cm×横18cm
- ⑩ 書写面は縦 20cm×横11cm
- ⑪ 毎頁 21行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 匡郭なし
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画なし

- ⑯ 挿画用空白部分あり

- ⑰ 冒頭の「歴史集成序文」欠

参考文献：Éthé 17; Browne (12)

(22) Bengal D31 *

- ① Asiatic Society of Bengal, Calcutta (ベンガル・アジア協会) 所蔵
- ② 写本番号 D31
- ③ 15世紀末または16世紀の初めに書写
- ④ 書写地はホラーサーンか
- ⑤ 124葉
- ⑥ 内容は『歴史集成』第1巻のうち「トゥルイ・ハン紀」から「クピライ・カーン紀」の途中までと、「フラグ・ハン紀」
- ⑦ ペルシア語
- ⑧ 大きさは 縦47cm×横32cm
- ⑨ 書写面は 縦34cm×横20cm
- ⑩ 毎頁 25行
- ⑪ ナスタアリーク体
- ⑫ 挿画あり (ただし計21図のみ、他は空白)

- ⑬ 挿画用空白部分あり

- ⑭ 「歴史集成序文」から「チングス・ハン紀」, 及び「アバカ・ハン紀」以下巻末までの部分が欠。

- ⑮ 挿画に特徴あり

参考文献：Ivanow 4; Gray (1954); Blair (1995)

(23) Or. 2927 **

① British Library, London (英国図書館) 所蔵

② 写本番号 Or. 2927

③ ヒジュラ暦994年ズールカダ月29日 (1586年11月11日) に書写終了

⑤ 書写地はインド (推定)

⑥ 256葉

⑦ 内容は『歴史集成』第1巻

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦33cm×横23cm

⑩ 書写面は 縦27.5cm×横17cm

⑪ 毎頁 27行

⑫ ナスタアリーク体

⑬ 匡郭あり

⑭ 装飾あり

⑮ 挿画なし

⑯ 挿画用空白部分あり

参考文献: Browne (9); Rieu, *Supplement*, 25

(24) Or. 2885 **

① British Library, London (英国図書館) 所蔵

② 写本番号 Or. 2885

③ ヒジュラ暦1030年ラジャブ月28日 (1621年6月19日) に書写終了

⑥ 422葉

⑦ 内容は『歴史集成』第1巻。続編として「オルジュイトゥ紀」, 「アブー・サイド紀」を含む。

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦34cm×横20cm

⑩ 書写面は 縦25.5cm×横14cm

⑪ 毎頁 21行

⑫ ナスタアリーク体

⑬ 匡郭なし

⑭ 装飾なし

⑮ 挿画なし

⑯ 挿画用空白部分あり

参考文献: Browne (10); Rieu, *Supplement*, 26

c. 挿画入り写本 Manuscripts with illustrations.

(16) Birūni 1620 * (既出)

(22) Bengal D31 * (既出)

(25) *Supplément persan* 1113 **

① Bibliothèque Nationale de France, Paris (フランス国立図書館) 所蔵

② 写本番号 *Supplément persan* 1113

③ 本文はヒジュラ暦819年 (1416/1417) 頃に書写されたもの, 挿画は同829年 (1425/1426) 頃のもので, 全体の完成は同829年頃と推定される。

④ 書写生は二名おり, 一人は佚名だが, 後半部分 (ff. 210-285) の書写を行ったのは, ティムール朝の歴史家ハーフィズィ・アブルー (1430年死去) である。

⑤ 本文の書写地及び挿画の作成地はヘラート (推定)

⑥ 285葉

⑦ 現存部分の内容は, 「歴史集成序文」の途中から「ガザン・ハン紀」の途中まで

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦32cm×横23cm

⑩ 書写面は 縦26cm×横20cm

⑪ 毎頁 33行

⑫ カーシブ・ナスフ体 (走り書きのナスフ体)

⑬ 匡郭あり

- ⑭ 現存部分には装飾なし
- ⑮ 挿画あり (109図)
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 約30葉分の落丁あり。写本の初めの部分と終わりの部分欠。奥書欠。錯簡多し。
- ⑱ 1890年に洋風革装本に改装。見返しに貼付してある原装の表紙は濃い青色で、花模様の空押しがしてある。
- ⑲ フランス国立図書館東洋写本部の F. Richard の研究によれば、この写本の挿画家の一人がサイーフ・ウッディーン・ワーヒディー (1430年及び1434年にヘラートにいたことが知られている人物) で、彼の四行詩が f. 181a に記されている。また、F. Richard によれば、シャー・ルフの蔵書印が f. 191r にあるという。

参考文献: Blochet, I, 254; Browne (19); 白岩 (1991); Richard, F. (1995); 白岩 (1995-2); Shiraiwa (1997)

(26) Dorn 289

- ① Aziatskoj Muzej, St.-Petersburg (ロシア科学アカデミー・アジア博物館) 所蔵
- ② 写本番号 Dorn 289
- ③ ヒジュラ暦935年 (1528/1529年) に書写
- ④ ペルシア語
- ⑤ 挿画あり

参考文献: Storey-Bregel', I, p. 308

(27) Golestan MS *

- ① Sařanat Library, Golestan Palace, Tehran (ゴレスターン宮殿サルタ

ナット図書館) 所蔵

- ③ ヒジュラ暦1004年ラマザーン月27日 (1596年5月25日) に書写終了。ただし挿画の作成は16世紀初めまで継続されたらしい。
 - ⑤ 本文の書写地及び挿画の作成地はデリー (推定)
 - ⑥ 304葉
 - ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻
 - ⑧ ペルシア語
 - ⑩ 大きさは 縦31.5cm~35.5cm×横21.5cm~24cm
 - ⑫ ナスタアリーク体
 - ⑬ 匡郭あり
 - ⑭ 装飾あり
 - ⑮ 挿画あり (98図)
 - ⑯ 挿画用空白部分なし
 - ⑰ かつてこの写本の挿画入り頁が切り取られ、美術品として売却されたことがあり、それらの挿画入り頁は、現在アメリカの美術館に所蔵されている。
 - ⑱ 後代のシェラック塗りの革装本。強く金箔押しが施されている。保護紙には花鳥の模様あり。
- 参考文献: Forman, Marek, Knřzkov (1963); 本目録, 図4

II. 『歴史集成』第2巻「世界史」の写本

- a. 本文のみの写本 Manuscripts consisting of text only

(28) Ahmed III 2935

- ① Topkapı Palace Library, Istanbul (トプカプ宮殿図書館) 所蔵

② 写本番号 アフメット III 世図書館
2935

③ 15世紀前半に書写

⑤ サマルカンド (推定)

⑥ 406葉

⑦ 内容は『歴史集成』第2巻

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦41cm×横26cm

⑩ 書写面は 縦30.5cm×横18cm

⑪ 毎頁 33行

⑫ ナスフ体

⑭ 装飾あり

⑮ 挿画なし

⑯ 挿画用空白部分なし

⑰ 革装本

⑱ ティムール朝のウルグ・ベク (1393
-1449) のために書写された写本。

参考文献: Ateş, pp. 25-26

(29) Adabiyāt 35-j

① Faculty of Literature, University
of Tehran (テヘラン大学文学部)
所蔵

② 写本番号 35-j

③ ヒジュラ暦11世紀 (1592-1688) に
書写

⑥ 36葉

⑦ 内容は、『歴史集成』第2巻のうちサ
ーマーン朝史, プワイフ朝史, ガズ
ナ朝史の部

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦24cm×横18cm

⑩ 書写面は 縦18cm×横14cm

⑪ 毎頁 19行

⑫ ナスタアリーク体

⑭ 装飾あり

⑮ 挿画なし

⑰ 革装なし

参考文献: Dānish-Pajūh, p.147;
Munzavī 42522

(30) Adabiyāt 76-b

① Faculty of Literature, University
of Tehran (テヘラン大学文学部)
所蔵

② 写本番号 76-b

③ ヒジュラ暦11世紀に書写

⑥ 304葉

⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (イスラ
ム史, ガズナ朝史, ホラズム・シャ
ー朝史, セルジューク朝史, ファー
ルのサルグール朝史, イスマーイー
ル派史, オグーズ史, インド史)

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦30.5cm×横18cm

⑩ 書写面は 縦24cm×横13cm

⑪ 毎頁 25行

⑫ ナスタアリーク体

⑬ 匡郭あり

⑮ 挿画なし

参考文献: Dānish-Pajūh, p.147;
Munzavī 42522

(31) Birūni 1

① Abu Rayhon Beruni Institute of
Oriental Studies, Tashkent (アブ
ー・ライハン・ビールーニー東洋学
研究所) 所蔵

② 写本番号 1

③ 18世紀頃書写

⑥ 369葉

⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (アラ
ブ・イスラム史, ガズナ朝史, セル
ジューク朝史, ホラズム・シャー朝
史, イスマーイーール派史, オグーズ
史, フランク史, インド史)

- ⑧ ペルシア語
 - ⑨ 大きさは 縦29.5cm×横19cm
 - ⑩ ナスフ体
 - ⑪ 挿画なし
 - ⑫ 巻頭と巻末が欠落。奥書欠。
- 参考文献：Semenov, I, 24

(32) Rylands 406

- ① John Rylands University Library of Manchester (マンチェスター大学図書館) 所蔵
 - ② 写本番号 406
 - ③ 19世紀初頭に書写
 - ④ 190葉
 - ⑤ 内容は『歴史集成』第2巻(古代ペルシア史, 古代アラブ史, イスラエル史, フランク史, 中国史)
 - ⑥ ペルシア語
 - ⑦ 大きさは 縦27.5cm×横16cm
 - ⑧ 毎頁 17行
 - ⑨ 挿画なし
 - ⑩ 巻末は欠。奥書欠。
 - ⑪ 本文にはヒジュラ暦717年(1317/1318年)までの記述を含む。
- 参考文献：Browne (16)

(33) Rylands 364b

- ① John Rylands University Library of Manchester (マンチェスター大学図書館) 所蔵
 - ② 写本番号 364b
 - ③ 19世紀初頭に書写
 - ④ ff. 27-65 (39葉)
 - ⑤ 内容は『歴史集成』第2巻の一部(インド史)
 - ⑥ ペルシア語
 - ⑦ 挿画なし
- 参考文献：Browne (15)

(34) Add. 18878

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
 - ② 写本番号 Add. 18878
 - ③ ヒジュラ暦 1244年ラビー第1月(1828年9月)に書写
 - ④ 書写地はインド(推定)
 - ⑤ 164葉
 - ⑥ 『歴史集成』第2巻(中国史, フランク史, インド史)
 - ⑦ ペルシア語
 - ⑧ 大きさは 縦24cm×横16cm
 - ⑨ 書写面は 横9cm
 - ⑩ 毎頁 11行
 - ⑪ ナスタアリーク体
 - ⑫ 挿画なし
 - ⑬ 本写本はインド史「シャカムニの予言」のところで中断。残りは欠。
 - ⑭ 本文は不正確かつ不完全(Rieuによる)
- 参考文献：Rieu, I, p. 79. cf. Rieu, III, p. 883 (Or. 1786); Browne (3); Munzavi 42524

(35) Or. 1684

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Or. 1684
- ③ 1850年代に書写
- ④ 書写地はインド
- ⑤ 249葉
- ⑥ 内容は『歴史集成』第2巻(ガズナ朝史, セルジューク朝史, ホラズム・シャー朝史, ファールスのサルグール朝史, イスマーイール派史)
- ⑦ ペルシア語
- ⑧ 大きさは 縦32cm×横20cm
- ⑨ 書写面は 横12cm

- ⑪ 毎頁 17行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 挿画なし
- ⑭ Lucknow 写本 (本目録 (53)) から書写されたもの。1850年7月20日付で、その旨の記載がある。本文には増補された箇所が見られるが、恐らく、元の Lucknow 写本にそうした増補箇所があると思われる。

参考文献: Rieu, III, p. 882;
Browne (4); Munzavi 42526

(36) Or. 1958

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Or. 1958
- ③ 1850年ごろに書写
- ⑤ 書写地はインド
- ⑥ 137葉
- ⑦ 内容は、ベンガル・アジア協会本『歴史集成』(本目録 (55)) の標題一覽。
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦23cm×横14cm
- ⑩ 書写面は 横 9cm
- ⑪ 毎頁 11行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 挿画なし

参考文献: Elliot, v.III, pp. 18-20;
Rieu, III, p. 883; Browne (7);
Munzavi 42525

(37) Or. 2007

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Or. 2007
- ③ ヒジュラ暦1267年ジュマード第2月 (1850年4月) に書写

- ⑤ 書写地はインド
- ⑥ 122葉
- ⑦ 内容は、『歴史集成』第2巻のうちインド史の部のみ。
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦28cm×横22cm
- ⑩ 書写面は 横13cm
- ⑪ 毎頁 15行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 挿画なし
- ⑭ 『歴史集成』Calcutta 写本 (本目録 (55)) 及び Lucknow 写本 (本目録 (53)) から書写されたもの。

参考文献: Rieu, III, p. 882-883;
Browne (5); Munzavi 42527

(38) Rizā MS

- ① Imām Rizā Library, Mashhad (イマーム・レザー廟付属図書館) 所蔵
- ③ ヒジュラ暦1300年 (1882/1883年) に書写
- ④ 書写生はダストゥール・ムハマッド・ハサン・ハーン・エッテマード・アル・サルタナ
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 金泥使用

参考文献: Munzavi 42530

(39) I.O. 3628

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 India Office Collections MS No. 3628
- ③ 19世紀に書写
- ④ 書写生は B. Morley
- ⑥ 323葉
- ⑦ 内容は、『歴史集成』第2巻のうち

インド史の部

- ⑧ ペルシア語
- ⑩ 毎頁 15行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 挿画なし

参考文献：Éthé 3004

(40) Or. 2062

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Or. 2062
- ④ 書写生は複数
- ⑤ 書写地はインド
- ⑥ ff. 24-59 (全155葉のうち36葉)
- ⑦ 内容は、『歴史集成』第2巻のうちインド史の部
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦25cm×横17cm
- ⑫ 書体は複数あり
- ⑬ 挿画なし

参考文献：Rieu, III, p. 1057 ;
Browne (8)

(41) Or. 1786

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Or. 1786
- ③ 19世紀に書写
- ⑤ 書写地はインド
- ⑥ 167葉
- ⑦ 内容は、『歴史集成』第2巻のうち中国史, フランク史, インド史の部のみ。
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦25cm×横16cm
- ⑩ 書写面は 横8cm
- ⑪ 毎頁 11行
- ⑫ ナスタアリーク体

⑬ 匡郭あり

⑭ 装飾あり

⑮ 挿画なし

⑯ 本文はインド史のシャカムニの予言のところで中断。後は欠。Add. 1878 (本目録 (34)) と内容は同じ。インドのムラダバードから入手した写本であるという。

参考文献：Rieu, III, p. 883 ;
Browne (6) ; Munzavī 42529

(42)-(43) Supplément persan 1364-1365 *

- ① Bibliothèque Nationale de France, Paris (フランス国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Supplément persan 1364-1365
- ③ 19世紀後半に書写
- ⑤ 書写地はイスタンブル
- ⑥ 336葉及び239葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (イスマーイール派史, オグーズ史, 中国史, インド史, ガズナ朝史, セルジューク朝史, ホラズム・シャー朝史, ファールスのサルゲール朝史)

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦26cm×横17cm

⑩ 毎頁 17行

⑫ ナスフ体

⑬ 匡郭あり

⑭ 装飾なし

⑮ 挿画なし

⑯ 挿画用空白部分なし

⑰ 緑色絹装本

⑱ Ahmed III 2935 (本目録 (28)) から書写されたもの。

参考文献：Blochet, I, 257-258 ;
Browne (20) ; Ateş, p. 25, n. 1

(44) C374

- ① Institut Narodov Azii, St.-Petersburg (ロシア科学アカデミー・アジア民族研究所) 所蔵
- ② 写本番号 C374
- ⑥ 241葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻
- ⑧ ペルシア語

参考文献: Akimushkin 901;
Munzavi 42533

(45) Punjab MS

- ① University of the Punjab Library (パンジャブ大学図書館) 所蔵
- ② 写本番号 2035 Pe 155
- ⑥ 681葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (アダムに始まる族長・預言者の歴史, 古代ペルシア史, イスラム史, ガズナ朝史, プワイフ朝史, イスマーイール派史, オグーズ史, フランク史, インド史)
- ⑧ ペルシア語
- ⑩ 毎頁 23行
- ⑫ ナスタアリーク体

参考文献: Munzavi 42538

(46) Raverty MS

- ① Gibb Memorial Fund, London (ギブ記念財団) 所蔵
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (オグーズ史, 中国史, ガズナ朝史, セルジューク朝史, ホラズム・シャー朝史)
- ⑧ ペルシア語
- ⑬ 挿画なし
- ⑰ 19世紀頃の比較的新しい写本だが, 明瞭に書写されているという。Calcutta MS (本目録 (55)) から上記

の部分を抄写したものとされる。

参考文献: Browne (26)

(47) PNS58

- ① National Library of Russia, St.-Petersburg (ロシア国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 PNS58
- ⑦ 内容はハーフィズイ・アブルー『歴史全書』*Majma' al-tavārikh* のうちラシード・ウッドイーノ『歴史集成』第2巻第2部に相当する部分。イスラム以前の歴史。
- ⑧ ペルシア語

参考文献: Storey-Bergel', I, p. 308

b. 挿画用スペース入り写本 Manuscripts with blank spaces for illustrations
現存する写本なし。

c. 挿画入り写本 Manuscripts with illustrations

(48) Khalili 727 *

- ① Nasser Khalili Collection, London (ナッセル・ハリリー・コレクション) 所蔵
- ② 写本番号 727
- ③ 1314年に書写
- ⑤ 本文の書写地及び挿画の作成地はタブリーズ (推定)
- ⑥ 60葉
- ⑦ 内容は、『歴史集成』第2巻のうちイスラム史, 中国史, インド史, イスラエル史の部分。
- ⑧ アラビア語

⑨ 大きさは 縦43.5cm×横30cm

⑩ 書写面は 縦37cm×横25.5cm

⑪ 毎頁 35行

⑫ ナスフ体

⑬ 匡郭あり

⑭ 装飾あり

⑮ 挿画あり (100図)

⑯ 挿画用空白部分なし

⑰ 錯簡あり

⑱ 洋装本

⑲ エディンバラ写本 (Arab 20, 本目錄 (49)) と同じ元の写本から切り離されたもので、エディンバラ写本とは異なる部分の残簡である。

⑳ Blair (1995)

参考文献: Browne (14); Gray (1978); Blair (1995)

(49) Arab 20 *

① Edinburgh University Library (エディンバラ大学図書館) 所蔵

② 写本番号 Arab 20

③ 1314年に書写

⑤ 本文の書写地及び挿画の作成地はタブリーズ (推定)

⑥ 151葉

⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (ムハンマド誕生までのペルシア・アラビア史, イスラム史, ガズナ朝史, セルジューク朝史, ホラズム・シャー朝史)

⑧ アラビア語

⑨ 大きさは 縦45cm×横34cm

⑩ 書写面は 横25cm

⑪ 毎頁 35行

⑫ ナスフ体

⑬ 匡郭あり

⑭ 装飾あり

⑮ 挿画あり (70図)

⑯ 挿画用空白部分なし

⑰ 落丁多し

⑱ Rice (1976)

参考文献: Rice (1976)

(50) Hazine 1654 *

① Topkapı Palace Library, Istanbul (トプカプ宮殿図書館) 所蔵

② 写本番号 Hazine 1654

③ ヒジュラ暦717年ジュマード第1月 (1317年7月12日~8月10日) に書写

⑤ 本文の書写地はスルターニーヤ或いはタブリーズ (推定)

⑥ 350葉

⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (序文 (族長たちと預言者たちの歴史), 古代ペルシア史, イスラム史, ガズナ朝史, セルジューク朝史, ホラズム・シャー朝史, オグーズ史, 中国史, フランク史)

⑧ ペルシア語

⑨ 大きさは 縦55cm×横38cm

⑩ 書写面は 横24.5cm

⑪ 毎頁 31行

⑫ ナスフ体

⑬ 匡郭あり

⑭ 装飾あり

⑮ 挿画あり (195図。ただしその内で写本の書写年代と同時代のもの1点のみ。後はティムール朝期に作成されたものと推定される)

⑯ 挿画用空白部分なし

⑱ 赤革洋装本

参考文献: Karatay 940; Munzavi 42516

(51) Hazine 1653 *

- ① Topkapı Palace Library, Istanbul (トプカプ宮殿図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Hazine 1653
- ③ ヒジュラ暦819年 (1416/1417年) に書写。ただし、その根拠となる奥書をヒジュラ暦829年 (1425/1426年) のものとする説もあり。
- ④ 書写生はハーフィズイ・アブルー他
- ⑤ 本文の書写地及び挿画の作成地はヘラート (推定)
- ⑥ 435葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (序文 (族長たちと預言者たちの歴史), 古代ペルシア史, イスラム史, ガズナ朝史, セルジューク朝史, ホラズム・シャー朝史, オグーズ史, 中国史, フランク史, インド史の一部)
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦54.5cm×横38cm
- ⑩ 書写面は 横22.8cm
- ⑪ 毎頁 35行
- ⑫ カーシブ・ナスフ体 (走り書きのナスフ体)
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾あり (8箇所)
- ⑮ 挿画あり (142図)
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 最後のインド史の部分が途中から欠落。
- ⑱ 赤革洋装本
- ⑲ 「オグーズ史」(ff. 375b-391a, 毎頁 32行) は、ヒジュラ暦714年 (1314/1315年) に作成された写本が、ハーフィズイ・アブルーらが書写した写本の中にそのまま組み込まれたもので、ラシード・ウッドイーン存命中に作成された『歴史集成』の挿画入りペルシア語写本の一例と

して貴重である。

参考文献: Karatay 99; Jahn (1969)

(52) Supplément persan 2004 *

- ① Bibliothèque Nationale de France, Paris (フランス国立図書館) 所蔵
 - ② 写本番号 Supplément persan 2004
 - ③ ヒジュラ暦830年 (1426/1427年) に書写
 - ④ 書写生はムハマッド・ビン・ムッラー・ミール・アル・カーティブ
 - ⑤ 書写地はヘラート (推定)
 - ⑥ 303葉
 - ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻 (序文 (族長たちと預言者たちの歴史), イスラム史, ガズナ朝史, セルジューク朝史, ホラズム・シャー朝史, ファールスのサルグール朝史, ファーティマ朝史, イスマーイール派史, オグーズ史, 中国史, フランク史, インド史)
 - ⑧ ペルシア語
 - ⑨ 大きさは 縦33.5cm×横20cm
 - ⑩ 毎頁 25行
 - ⑪ ナスタアリーク体
 - ⑫ 匡郭あり
 - ⑬ 装飾あり
 - ⑭ 挿画あり
 - ⑮ 挿画用空白部分なし
 - ⑯ イスラエル史が欠。オグーズ史に落丁あり。
 - ⑰ 白色パーチメント洋装本
- 参考文献: Blochet, IV, 2279

(53) Lucknow MS

- ① Royal Library of Lucknow (旧ラクナウ王立図書館) 所蔵

- ⑥ 105葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻(ガズナ朝史, ホラズム・シャー朝史, セルジューク朝史, プワイフ朝史, カリフ史の一部, インド史)
- ⑧ ペルシア語
- ⑩ 毎頁 35行
- ⑬ 挿画あり
参考文献: Elliot, III, pp. 16-17

(54) PNS 57

- ① National Library of Russia, St.-Petersburg (ロシア国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 PNS 57
- ③ 内容は, ハーフイズィ・アブルーの『歴史の精華』のうち『歴史集成』第2巻第2部に相当するイスラム以前の歴史の部分。
- ⑧ ペルシア語
- ⑬ 挿画あり (93図)
参考文献: Storey-Bregel', I, p. 308

(55) Calcutta MS

- ① Asiatic Society of Bengal, Calcutta (ベンガル・アジア協会) 所蔵
- ③ ヒジュラ暦1098年 (1686/1687年) に書写
- ⑥ 291葉 (581pp.)
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻(セルジューク朝史, オグーズ史, 中国史, イスラエル史, 族長たちと預言者たちの歴史, 古代ペルシア史, ギリシア史, イスラム史, モンゴル史(?), フランク史, ガズナ朝史, インド史)
- ⑧ ペルシア語

- ⑨ 大型フォリオ版
- ⑩ 毎頁 30行
- ⑬ ナスタアリーク体
- ⑮ 挿画あり
参考文献: Elliot, III, pp. 18-21

(56) Arab b. 1 **

- ① Bodleian Library, Oxford (ボードリアン図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Arab b. 1
- ③ 1838年から1885年の間に書写
- ⑥ 10葉
- ⑦ 内容は, 『歴史集成』第2巻のうち中国史の一部。
- ⑧ アラビア語
- ⑨ 大きさは 縦44cm×横30cm
- ⑩ 書写面は 縦37cm×横26cm
- ⑪ 毎頁 35行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画あり
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 中国史冒頭から伝説上の帝王の記述まで欠。その他落丁2葉分あり。
- ⑱ 茶色洋装本
- ⑲ Khalili 727(本目録(48))の中国史の部を書写したもの。⑰の欠落部分や落丁はすでに同写本に見られるもので, Khalili 727の中国史の部分をも, 挿画も含めて忠実に模写している。
参考文献: Storey, p. 72; Shiraiwa (unpublished)

III. 『歴史集成』第1巻及び第2巻の合巻本

- a. 本文のみの写本 Manuscripts con-

sisting of text only

(57) PNS 46 *

- ① National Library of Russia, St.-Petersburg (ロシア国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 PNS 46 (旧サルティコフ・シチェドリン公共図書館 v, 3, 1)
- ③ ヒジュラ暦810年ムハラム月の半ば (1407年6月22日) に書写
- ⑥ 459葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻, 第1巻
- ⑧ ペルシア語
- ⑩ 毎頁 33行
- ⑫ ナスフ体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 現存部分には装飾なし
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 欠落多し。冒頭部分, 巻末部分欠。

参考文献: Storey-Bregel', I, p. 308

(58) Add. 7628 **

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Add. 7628
- ③ ヒジュラ暦 837年 (1433/1434年) までに書写。
- ④ 書写生は複数
- ⑤ 書写地はヘラート (推定)
- ⑥ 728葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻, 第1巻
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦46cm×横28cm
- ⑩ 書写面は 縦32cm×横19cm
- ⑪ 毎頁 33行

- ⑫ ナスフ体及びナスタアリーク体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分なし
- ⑰ 章立ての順番が Baghdad Köškü 282 (本目録 (63)) と異なっている。
- ⑱ 洋風革装本
- ⑲ シャー・ルフの子バイソソル (1433年死去) の自筆部分あり。したがって, 遅くとも1433年までに書写されたことが確実である。シャー・ルフの蔵書印あり (ff. 157a, 524a, 623a, 728b)。
参考文献: Browne (1); Jahn (1940), pp. xiii-xiv; Munzavi 42517

(59) Damad Ibrahim 919

- ① Süleimaniye Library, Istanbul (スュレイマニエ図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Damad Ibrahim Paşa 919
- ④ ダルヴィーシュ・ムハマッド・ターカーニーが書写
- ⑥ 1006葉
- ⑦ 内容はハーフィズィ・アブルー編の『ハーフィズィ・アブルー全書』。ラシード・ウッディーン『歴史集成』第1巻及び第2巻は ff. 351b-700b を占める。
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦36cm×横25.5cm
- ⑩ 書写面は 縦29cm×横18cm
- ⑪ 毎頁 32行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 装飾あり
- ⑭ 挿画なし

- ⑬ 洋風革装本
- ⑭ 内容は Baghdad Köškü 282 (本目録(63)) とほぼ同じだが、収録されている歴史書の題名に少し違いあり。

参考文献: Tauer 33; Munzavi 42518

(60) Milli F/1656

- ① National Library, Tehran (イラン国立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 F/1656
- ③ ヒジュラ暦13世紀 (19世紀頃) に書写
- ④ 書写生はミールザ・ラーズイー・アーシュティヤーニー
- ⑤ 書写地はテヘラン (推定)
- ⑥ 361葉
- ⑦ 内容は、『歴史集成』第2巻, 古代ペルシア史からインド史まで, 及び, 第1巻の中途まで。
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦46.5cm×横29cm
- ⑩ 書写面は 縦32.5cm×横19cm
- ⑪ 毎頁 26行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 挿画なし
- ⑮ 最後の方の部分が欠落
- ⑯ 黒い山羊革の革装本
- ⑰ ナースィル・ウッディーン・シャーの印 (muhr) が f. 1 と f. 361b にあり

参考文献: 足利, 田村, 恵谷 (1968), 23頁; Anvār (1973), pp. 92-93

(61) PNS 47

- ① National Library of Russia, St.-Petersburg (ロシア国立図書館) 所蔵
- ③ ヒジュラ暦 1268年 (1851/1852年) に書写
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻及び第2巻
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 欠落あり。内容から判断すると, PNS 46 (本目録(57)) を書写したもののようである。

参考文献: Storey-Bregel', I, p. 308

b. 挿画用スペース入り写本 Manuscripts with blank spaces for illustrations

(62) I.O. 3524 * *

- ① British Library, London (英国図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Indian Office Collections MS no. 3524
- ③ ヒジュラ暦1082年シャバーン月6日 (1671年12月8日) に書写終了
- ④ 書写生はターヒル・ビン・アブドル・バーキー・アラウィー
- ⑥ 599葉
- ⑦ 内容は『歴史集成』第2巻, 第1巻
- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦36.5cm×横23cm
- ⑩ 書写面は 縦26.5cm×横16cm
- ⑪ 毎頁 25行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾なし
- ⑮ 挿画なし
- ⑯ 挿画用空白部分あり
- ⑰ 洋風革装本 (ハーフ・レザー)

- ①9 f. 55a に書名が *Zubdat al-tavārikh* (歴史の精華) と記されているので、ハーフィズィ・アブルー編の同書の写本と見なすべきものか。なお、f. 405a 及び f. 406a で、ラシード・ウッドティーン『歴史集成』の原名が通常知られている *Jāmi' al-tavārikh* と異なり、*Javāmi' al-tavārikh* となっている点が注目される。この後者の方の呼び方は、ティムール朝期に編纂された系図集『五分枝』にも見られるもので、同書と『歴史の精華』との間には、例えば編者が同じハーフィズィ・アブルーであるといったような、かなり密接な関係があるように思われる。

参考文献: Éthé 2828; Browne (11)

c. 挿画入り写本 Manuscripts with illustrations

(63) Baghdad Köşkü 282

- ① Topkapı Palace Library, Istanbul (トプカプ宮殿図書館) 所蔵
- ② 写本番号 Baghdad Köşkü 282
- ③ ヒジュラ暦 9 世紀の前半 (15 世紀前半) にシャー・ルフのために書写されたもの
- ⑤ 書写地はヘラート (推定)
- ⑥ 938 葉
- ⑦ タバリ『預言者たちと王たちの歴史』のペルシア語訳、ラシード・ウッドティーン『歴史集成』から主として材料を取ったカーティブ・アフサン・アッラフ『タバリ続編』(ヒジュラ暦 818 年 (1415/1416 年) までの歴史)、及びラシード・ウッドティーン

『歴史集成』第 2 巻の各部分などから成る。

- ⑧ ペルシア語
- ⑨ 大きさは 縦 42cm × 横 31cm
- ⑩ 書写面は 横 21cm
- ⑪ 毎頁 31 行
- ⑫ ナスタアリーク体
- ⑬ 匡郭あり
- ⑭ 装飾あり
- ⑮ 挿画あり (20 図)
- ⑯ 空押しと金箔押しが施された、日輪型装飾付きのオスマン朝時代の革装本
- ⑰ 紙は光沢のある薄い紙。カーティブ・アフサン・アッラフの『タバリ続編』は、f. 297b から f. 515b まで。ラシード・ウッドティーン『歴史集成』第 2 巻の各部分は f. 516b から f. 652b まで。

参考文献: Tauer 32; Karatay 138

(64) Bayern 208

- ① Bayerische Staatsbibliothek, München (バイエルン州立図書館) 所蔵
- ② 写本番号 208
- ③ 298 葉
- ④ 内容は、『歴史集成』第 2 巻のうち古代ペルシア史、イスラム史 (部分)、サーマン朝史、セルジューク朝史、中国史、フランク史、インド史、及び第 1 巻の途中まで。
- ⑤ ペルシア語
- ⑥ 大きさは 縦 24.5cm × 横 18cm
- ⑦ 毎頁 22 行
- ⑧ ナスタアリーク体
- ⑨ 挿画あり
- ⑩ ガズナ朝史、ファールスのサルグー

ル朝史, イスラエル史, オグーズ史
の各部分欠。

参考文献: Aumer 208; Browne
(24)

IV. 写本の詳細ないし所在が不明のもの

(65) *Iqbal Ashtiyāni MS*

- ① *Iqbal Ashtiyāni* (Tehran) 所蔵
- ③ ヒジュラ暦 717年第1ジュマデー
月25日 (1317年8月2日) に書写終了
- ④ 書写生はアブドゥル・ワッハーブ
- ⑤ 書写地はスルターニーヤ
- ⑦ 内容は『歴史集成』第1巻
- ⑧ ペルシア語

参考文献: Munzavī 42512

(66) *Muḥammad Qazvīni MS*

- ① *Muḥammad Qazvīni* (Tehran) 所蔵
- ② ヒジュラ暦717年 (1317/1318) に書写
- ⑦ 『歴史集成』第2巻第2部, アッバー
ス朝滅亡までのイスラム史
- ⑧ ペルシア語
- ⑰ 落丁あり

参考文献: Storey-Bregel', I, p.
310

(67) *Salṭanat MS*

- ① *Salṭanat Library*, Golestan Palace,
Tehran (ゴレスターン宮殿サルタ
ナット図書館) 所蔵
- ③ ヒジュラ暦1074年シャバーン月6日
(1664年3月4日) に書写終了
- ④ 書写生はヤークーブ・ファルザン
デ・シェイフ・ミール・アリム・バ
バ・ハムザ

⑧ ペルシア語

参考文献: Munzavī 42520

(68) *Farhad Mu'tamid MS*

- ① ファルハード・ムウタミド (Te-
hran) 所蔵
- ③ ヒジュラ暦13世紀 (1786-1883) に
書写
- ④ 書写生はファルハード・ミールザ
- ⑧ ペルシア語
- ⑰ ナスタアリーク体

参考文献: Munzavī 42528

(69) *Chanykov 62*

- ① *National Library of Russia*, St.-
Petersburg (ロシア国立図書館) 所蔵
- ③ ヒジュラ暦1256年 (1840/1841年)
に書写
- ⑧ ペルシア語

参考文献: Storey-Bregel', I, p.
309

(70) *Rampur 1*

- ① *Rizā Library*, Rampur (レザー図
書館) 所蔵

参考文献: Munzavī 42525

(71) *Rampur 2*

- ① *Rizā Library*, Rampur (レザー図
書館) 所蔵

参考文献: Munzavī 42526

(72) *Rampur 3*

- ① *Rizā Library*, Rampur (レザー図書
館) 所蔵

参考文献: Munzavī 42527

参考文献一覽

- Akimushkin, O. F., et al. *Persidskie i Tadzhikske rukopisi Instituta Narodov Azii AN SSSR; kratkii alfavitnyi katalog, chast' I*. Moskva, 1964.
- Anvār, Sayyid Abdullāh. *A catalogue of the manuscripts in the National Library*, vol. 4: *Persian manuscripts no. 1501-2000*. Tehran, 1973.
- 足利惇氏, 田村実造, 恵谷俊之『イランの歴史と言語』 京都大学文学部 1968
- Ateş, Ahmed, ed. *Rašid al-Din Fazlallah, Cami' al-tavarih (Metin)*, II. cild, 4 cüz: *Sultan Mahmud ve devrinin tarihi*. Ankara, 1957.
- Aumer, Joseph. *Die Persischen Handschriften der K. Hof- und Staatsbibliothek in Muenchen*. München, 1866.
- Blair, Sheila S. *A compendium of chronicles; Rashid al-Din's illustrated history of The world*. London, 1995.
- Blochet, E. *Catalogue des manuscrits persans de la Bibliothèque Nationale*, t. I-IV. Paris, 1905-1934.
- Browne, Edward G. "Suggestions for a complete edition of the Jami'u't-tawarikh of Rashidu'd-Din Fadlu'llah," *Journal of Royal Asiatic Society*, 1908.
- Dānīsh-Pajūh, M. M. T. *Fihrist-i nuskhah-hā-yi khattī-i Kitābkhānah-i Dānīshkādah-i Adabiyāt*. Tīhrān, 1339 (=1960).
- Elliot, H. M. *The History of India, as told by its own historians*, vol. III. London, 1871.
- Éthé, H. *Catalogue of the Persian manuscripts in the Library of the India Office*. Oxford, 1903.
- Flügel, Gustav. *Die arabischen, persischen und türkischen Handschriften der Kaiserlich-Königlichen Hofbibliothek zu Wien*, Bd. 2. Wien, 1865.
- Forman, W. (photographies), J. Marek et H. Knizková (texte). *L'empire de Gengis-Khan dans la miniature mogole*. Prague, 1963.
- Gray, Basil. "An unknown fragment of the Jami' al-tawarikh in the Asiatic Society of Bengal," *Ars Orientalis*, v. 1 (1954), pp. 65-75.
- idem. *The World History of Rashid al-Din; a study of the Royal Asiatic Society Manuscript*. London, 1978.
- Ivanow, Wladimir I. *Concise descriptive catalogue of the Persian manuscripts in the collection of the Asiatic Society of Bengal*. Calcutta, 1924.
- Jahn, Karl, hrsg. *Geschichte Gāzān-Hān's aus dem Ta'rih-i Mubārak-i Gāzānī des Rašid al-Dīn*. London, 1940.
- idem. "Study on supplementary Persian sources for the Mongol history of Iran," *Aspects of Altaic Civilization*, ed. Denis Sinor, Bloomington, 1963, pp. 197-204.
- idem. *Die Geschichte der Oguzen des Rašid ad-Din*. Wien, 1969.
- Karatay, Fehmi Edhem. *Topkapı Sarayı Müzesi Kütüphanesi farsça yazmalar kataloğu*. Istanbul, 1961.
- Munzavī, Ahmad. *Fihrist-i nuskhah-hā-yi khattī-i fārsī*, jild 6. Tīhrān, 1353 (1974).
- Nafisi, Sa'īd. *Fihrist-i Kitābkhānah-i Majlis-i Shūrā-yi Millī*, jild 6. Tīhrān, 1344 (1965).
- Rice, David Talbot. *The illustrations to the 'World History' of Rashid al-Din*. Ed. Basil

- Gray. Edinburgh, 1976.
- Richard, Francis. "Un des peintres du manuscrit Supplément persan 1113 de l'Histoire des Mongols de Rašid al-Din," *L'Iran sous la domination mongole: actes du colloque de Pont-à-Mousson*, Paris, 1995.
- Rieu, Charles. *Catalogue of the Persian manuscripts in the British Museum*, v.1-3. London, 1879-1883, repr. 1966.
- idem. *Supplement to the Catalogue of the Persian manuscripts in the British Museum*. London, 1895, repr. 1966.
- Sachau, Ed., and Hermann Éthé. *Catalogue of the Persian, Turkish, Hindustani and Pushtu manuscripts in the Bodleian Library*, part I: *The Persian manuscripts*. Oxford, 1889.
- Semenov, A. A., ed. *Sobranie vostochnykh rukopiseĭ Akademii Nauk Uzbekskoi SSR*, t.I. Tashkent, 1952.
- 白岩一彦「モンゴル史に関する原典史料, 13-14世紀」『アジア・アフリカ資料通報』第23巻第9号(1985年12月), 23-36頁
- 同「ラシード・ウッディーンのワクフ文書」『アジア資料通報』第26巻第12号(1989年3月), 28-40頁
- 同「『集史』パリ写本(Supplément persan 1113)について」『オリエント』第34巻第1号(1991年9月), 17-31頁
- 同「『集史』テヘラン写本(イラン国民議会図書館写本2294番)について」『オリエント』第36巻第1号(1993年9月), 55-70頁
- 同「『集史』研究の現状と課題」『日本中東学会年報』第10号(1995), 179-198頁
- 同「チンギス・ハンの文献をたずねて」『東亜』1995年8月号(No. 338), 4-6頁
- 同「歴史家ラシード・ウッディーンの生涯と著作」『アジア資料通報』第35巻第2号(1997年4月), 1-12頁
- 同「ラシード・ウッディーン『歴史集成』イラン国民議会図書館写本の成立年代について」『オリエント』第40巻第2号(1998年3月), 85-102頁
- Shiraiwa, Kazuhiko. "Sur la date du manuscrit parisien du *Ġāmi 'al-tavārikh* de Rašid al-Dīn," *Orient* (Tokyo), v. 32(1997), pp. 37-49.
- idem. "The illustrated Arabic manuscript of Rashid al-Din's History of China in the Bodleian Library, Oxford" (unpublished).
- Storey, C.A. *Persian literature; a bio-bibliographical survey*, vol. I: *Qur'anic literature; history and biography*, Part 1: *Qur'anic literature; history*. London, 1927-1934, repr. 1989.
- Storey, Charles. *Persidskaya literatura; bio-bibliograficheskiĭ obzor*. Perevel s angliiskogo, pererabotal i dopolnil YU. E. Bregel'. Chast'1. Moskva, 1972. (Storey-Bregel' と略記)
- Tauer, Felix. "Les manuscrits persans historiques des bibliothèques de Stamboul," I-V, *Archiv Orientalni*, vol. III, no.1 (April 1931)-no.3 (December 1931), vol. IV, no. 1 (April 1932)-no.2 (August 1932).
- Togan, A. Zeki Velidi. "The composition of the History of the Mongols by Rashid al-Din," *Central Asiatic Journal*, vol. VII, nr. 1 (1962), pp. 60-72.

(しらいわ かずひこ 国際協力課)